

福島県檜葉町 政策広報室

菅井 俊貴 さん

年齢: 41歳

出身地: 愛知県

● 経歴 ●

平成11年	建築会社へ入社
平成23年	青年海外協力隊としてタンザニアへ派遣
平成25年	復興庁市町村応援職員として檜葉町に駐在
平成28年	檜葉町正規職員として勤務

※復興庁スキーム → 市町村正規職員

「復興の最前線で仕事をしたい」との思いから、復興庁市町村応援職員に応募

東日本大震災が起きる前、私は青年海外協力隊としての派遣に向けた訓練を福島県二本松市のJICA訓練所で受けていました。平成23年3月11日、訓練課程を修了し折しも帰りの電車内で被災しました。一時は訓練所に引き返して避難しましたが、紆余曲折を経て、東アフリカのタンザニアへ赴任することができました。

青年海外協力隊として2年間、タンザニアの職業訓練校にてコンピュータ技術に関する業務で活動しました。任期を満了して、帰国後に青年海外協力隊のOBを対象に復興庁が市町村応援職員の募集をしていることを聞き興味を持ちました。実際に震災を体験していたことと、福島復興局の方の熱心な勧誘がきっかけで、「震災・原発事故からの復興の最前線で仕事をしたい」と考えるようになり、復興庁市町村応援職員への応募を決めました。

応援職員の任期終了後、檜葉町の職員へ転籍

復興庁市町村応援職員として檜葉町に着任し、総務課に配属となりました。主な仕事は選挙事務や、人事管理等の一般事務でした。元々応援職員としての任期は1年でしたが、2回任期を更新し、3年間応援職員として勤めました。

応援職員としての最終年に、町職員の方から「町の職員として町に残らないか」と声をかけていただき、採用試験を受けることを決めました。

平成28年度から職員として改めて総務課へ配属となりました。平成29年度からは政策広報室に異動となり、庁舎内のネットワーク系の維持管理や広報誌に載せる写真の撮影等の業務を行っています。

Q&A

Q1. 総務課と政策広報室、二つの部署を経験されていますが、お仕事のやりがいは何ですか？

応援職員として着任して以来、「町を良くすることに貢献したい」という思いで、必要な仕事に着実に取り組んできました。自分に出来ることで、町にとって必要なことは何かを考え、マイペースに、しかし着実に仕事をこなしてきたと振り返っています。檜葉町が、子供たちが学び、遊び、のびのびと成長できるような町になっていくためのお手伝いが出来ていれば幸いです。

Q2. 復興庁市町村応援職員から檜葉町の正規職員に転籍し、長期にわたって檜葉町に勤務していらっしゃいます。町で長く働こうと思った理由は何ですか？

町の復興はまだまだ長い時間がかかり人手が必要とされていると感じたこと、これからも復興に関わっていきたいと考えていたことが大きいです。

町の職員となったからには、今後も檜葉町役場で勤務し続けるつもりです。町が良くなるために必要な仕事を、今後もしっかりと担っていきたいと考えています。

これから被災地で働く方へメッセージ

あまり気負いせずに必要な業務や役割をしっかりと果たすことが大切だと思います。方言が聞き取れないなど、小さな壁にぶつかることもありますが、すぐに慣れるので大丈夫です。応援しています。